株式会社田中化学研究所（福井県）

～ 知的財産管理委員会、情報管理委員会で特許・ノウハウを戦略的に保護 ～

1．技術価値を守るための特許出願

株式会社田中化学研究所は、世界で初めて水酸化ニッケルの粒子形状を「球状」にすることに成功、ニッケル水素電池の正極材料分野で世界シェア70%を誇る。このようなハイテク電池用材料を提供する企業であるため、知的財産は非常に重要と受け止めている。また、ユーザニーズによる研究も多いため、共同出願が多い状況であるが、独自性のある技術を創出することにも注力している。

同社の最大の特徴は技術力にあり、最先端技術に積極的に参入し、製品化に繋げることで差異化を図っている。特に、開発された製品に関する特許については、経営戦略において非常に重要であるとし、製品の技術価値を確保するため、特許出願には注力しているところである。なお、これまで電池部門ではほぼ独走してきたが、自動車業界等の参入により競争が激しくなってきており、そのため、研究開発者による先行技術調査を徹底させている。

2．「知的財産管理委員会」で出願を判断

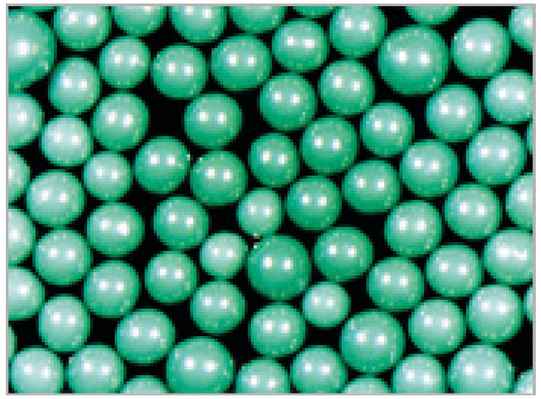
定例で行われる「出願促進委員会」においてアイデア等内容をチェックしつつ刈り取り、社長を筆頭とした「知的財産管理委員会」でノウハウか権利取得かの判断を行っている。目標は研究者による明細書の自社内作成であるが、その発明のクレームとなるポイントと、各種実験データを提出させ、特許関係者と弁理士との連携により明細書を作成し、「知的財産管理委員会」において最終確認を行っている。

3．「情報管理委員会」で技術流出を防止

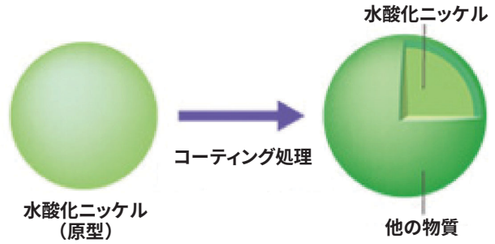
米国に出願を行っているところであるが、今後、権利化も含め、アジア圏の扱いが課題としている。またノウハウに関するものは管理規程の策定をはじめ「情報管理委員会」を設置し、重要情報の流出リスクに対応している。化学反応プロセス等はノウハウとして秘匿しており、販売契約書等でもノウハウの流出に注意しているところである。

なお、同社は株式店頭登録をしており、知的財産委員会等の設置に関するお知らせをニュースリリースするなど積極的にアピールし企業価値の保全にも努めている。

【保有権利に基づく製品例】



球状水酸化ニッケル



＜会社概要＞

名称及び代表者名	株式会社田中化学研究所　　代表取締役社長　田中 保
本社所在地	福井県福井市白方町45字砂浜割5番10号
創業	1957（昭和32）年
資本金	19億837万円
従業員数	117名
主要製品	ニッケル水素電池やリチウムイオン電池用の正極材料
電話	0776-85-1801
URL	http://www.tanaka-chem.co.jp/